

栽培の省力化に向けた短節間性カボチャ品種

温室効果ガス

農薬

肥料

有機農業

その他
(労働生産性)

生産 品目：カボチャ

技術の概要

栽培の省力化に向け短節間カボチャ、「TC2A」、「くりひかり」、「ジェジェ」および「おいとけ栗たん」を育成した。これらの品種は生育初期は節間が詰まる短節間性を示し、側枝数が少ない。摘心、整枝、誘引は不要で、果実が株元近くに付きやすいため、果実が見つかりやすく、収穫が容易である。



株元に着果しやすいので収穫が楽。

効果

◎カボチャの定植後作業時間の2割削減

カボチャの作業のうち、整枝、誘引作業が省略でき、収穫も容易なことから作業時間の省力化が可能である。

◎株元着果性が強いいため、密植による栽培が可能

カボチャはつる性のため栽培に広い面積を要するが、短節間性品種では従来品種の畝間300cm→最狭150cmまで可能で、より狭い面積でも高い収量が期待できる。

●新しい短節間カボチャ「おいとけ栗たん」



「おいとけ栗たん」は日持ち性の良いカボチャで、大果で良食味の短節間性品種。

導入の留意点

- 株元近くに着果するため、日焼け果が生じやすい
株元の葉から枯れやすいため、直射日光が当たり日焼け果が出る場合は、新聞紙や粘着テープで果実の保護が可能。
- 密植栽培を基本とする

その他（価格帯、研究開発・改良、普及の状況）

- 市場価格
 - ・ 果実は北海道で80円～100円/kg。関東で300円/kgで推移。種子は29～39円/粒で推移。
- 改良・普及の状況
 - ・ 北海道を中心に導入。開発品種の作付面積は約200ha（北海道96ha、本州-九州56ha、沖縄県50ha。2019年度）
- 適応地域：日本全国

関連情報

- 最新農業技術・品種2017：
栽培の省力化に向けた短節間性カボチャ品種
(平成29年)

